マツキボシゾウムシ

マツ属の幹や枝の樹皮下にもぐるイモムシ（幼虫）．最大長約7mm．頭は茶色．体は黄白色．脚（あし）はない．食害された木は樹皮にヤニの流出がしばしばみられる．古い被害木では樹皮に直径約3～4mmの丸い穴が多数開いている．樹皮を剥がすと材表面に糸状の材片に取り囲まれた俵形の部屋（蛹室）がある．長さは約10mm．
普通は新鮮な丸太や枯れ木に発生し，健全な木にはほとんど寄生しない．異常乾燥や食葉性害虫の食害などにより衰弱した木を加害し枯らすことがある．植えた直後の木や苗木の被害も記録されている．
よく似た[トドキボシゾウムシ]がトドマツやエゾマツに寄生する．

【学名】 *Pissodes nitidus*
【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ゾウムシ科（Curculipnidae）
【分布】 北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島

【生態】
アカマツ，クロマツ，ストローブマツ，リギダマツなどマツ属やヒマラヤスギに寄生する．
成虫で越冬．雌成虫の寿命は長く，２～３年生きるものもあるといわれている．雌成虫は５～９月に新鮮な丸太や衰弱木などの樹皮に産卵する．幼虫は内樹皮を中心に摂食して成長する．老熟すると材表面に穴を掘り，糸状の材片で囲まれた蛹室を作る．羽化した成虫は外に出て倒木などで越冬する．卵から成虫になるまで３～４ヶ月かかる．

【防除】
被圧木や衰弱木，新鮮な丸太や枯死木を早期に処分して繁殖を抑制し予防する．樹皮を剥がしたり，近くにマツのない場所に搬出する．

トドキボシゾウムシ
トドマツ，モミ，エゾマツにつく．北海道では過去に１例だけ被害が記録されている．
【学名】 *Pissodes cembrae*
【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ゾウムシ科（Curculipnidae）
【分布】 北海道，本州；シベリア

戻る

【文献】
1985．農林水産省林業試験場北海道支場保護部．北海道樹木病害虫獣図鑑．223 pp．北方林業会，札幌．（生態，被害，カラー

写真）.

1994．森本桂．日本産キボシゾウムシ属の検索表．小林富士雄，竹谷昭彦編集，森林昆虫，総論・各論: 159-160．養賢堂，東京．（形態，寄主）

1994．森本桂．マツキボシゾウムシ．小林富士雄，竹谷昭彦編集，森林昆虫，総論・各論: 160-161．養賢堂，東京．（形態，生態，被害，防除）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツキボシゾウムシ zoumusi/matukibo/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/10/7-12/14.